

9 学校と大学の 協働的実践研究部会	部会テーマ	現職派遣院生による学校改革、授業力の向上を目指した実践研究
内 容	宇都宮大学教職大学院では、理論と実践を往還しながら学校改革力、授業力、個への対応力を伸長することを目指している。現職派遣院生は、自身の研究内容と共通する学校課題を掲げる学校の校内研究等に実習生として参画させていただきながら実践研究を行っている。本部会では、3名の現職派遣院生による2年間の実践研究の発表を通して、中堅教員による主体的な学校改革や、学校と大学の更なる連携・協働の可能性を考える機会としたい。	
部 会 担 当	前田 憲政(総合教育センター)	指導助言者 青柳 宏(宇都宮大学大学院)

※ 時刻はおよその目安です。予定時刻通りにならない場合もありますことを御了承願います。

発表①

児童の視点を生かした協働的学級経営の提案

9時55分～10時20分

宇都宮市立瑞穂野南小学校 佐藤 誠

小学校中学年まで教科担任制を拡大する施策について、発達の段階として学級経営に悪影響があるのではとの意見もある。そこで本研究では、体育科の授業を専科教員が行うことが学級経営にいかなる影響を及ぼすか検証した。結果、チームビルディング等の視点を活かすことで学級経営にも好影響があることを明らかにできた。

発表②

校内研修を生かした同僚性の構築

～教師の学びを支える「学びカフェ」の実践を通して～

10時20分～10時45分

鹿沼市立東小学校 吉澤 涼

コロナ禍を経て減少した交流、特に異学年の教員とのつながりを生み出すとともに、教員自身の「主体的・対話的で深い学び」を支えることを目的とし、誰でも気軽に参加し、自由に話せる場となる「学びカフェ」を開き、教員の参加を促した。実践の詳細と、「同僚性アンケート」により捉えた効果を発表する。

発表③

教科の「見方・考え方」を働かせながら学びを深める授業デザイン

10時45分～11時10分

那須烏山市立江川小学校 小森 国雄

算数の文章問題が苦手な子どもの学ぶ姿を丁寧に観察し、それぞれの子どもの「見方・考え方」に着目した。子どもが数学的な「見方・考え方」を働かせながら自分らしく学習し、学習課題を解決できるようになっていくために、どのような授業を展開するとよいか検討を重ね、実践を行った。

本部会のまとめ

11時10分～11時30分

宇都宮大学大学院教育学研究科 青柳 宏